

## 平成 29 年度第 2 回総合教育会議 議事録

1. 開会日時 平成 29 年 11 月 22 日（水） 15 時～16 時 35 分
2. 会議場 松浦市役所 4 階 第 4 委員会室
3. 出席者
  - 松浦市長 友広 郁洋
  - 松浦市教育委員会教育長 今西 誠司
  - 〃 教育委員 島田茂明、市原 義光、白石しのぶ、平原 章宏
  - 〔事務局〕 学校教育課 黒川 政信
  - 教育総務課 星野 真嗣、 宮崎 直人
  - 生涯学習課 近藤 寿一
  - 文化財課 内野 義
4. 内容
  - (1) 市長挨拶
  - (2) 教育長挨拶
  - (3) 協議
    - ① 児童・生徒の学力向上について
    - ② 市民あがての読書活動の推進について
5. 傍聴人 無
6. 発言の詳細 以下のとおり（要点記録）

【発言者】	【内 容】
教育総務課長	ただ今から平成 29 年度第 2 回松浦市総合教育会議を開催いたします。はじめに、友広市長がご挨拶申し上げます。
市長	<p>皆様、こんにちは。平成 29 年度第 2 回松浦市総合教育会議をご案内申し上げましたところ、皆様ご多忙の中にご出席をいただき厚くお礼申し上げます。</p> <p>総合教育会議は、地方教育行政法の改正により、平成 27 年 6 月に設置をさせていただいて、今回が 7 回目となります。皆様には教育委員として、また色々な面でご尽力いただいていることに、厚くお礼申し上げます。</p> <p>これまでも、児童・生徒の学力向上であるとか、松浦高校の連携支援、教育環境の整備等について、議論をさせていただいたところ。総合教育会議でいただきました貴重なご意見を、私としては、予算で反映すべきだと努力しているところですが、満足な予算措置が出来ていないことについては、心苦しく思っているところがございます。</p> <p>7 月に平成 29 年度の第 1 回目を開催しました時に、「教育のまち 松浦」の確立に向けてということで、大きなテーマでご議論いただいたわけがございます。その中で、市民をあげての読書活動の推進、市内小中学校への配当予算の確保、郷土を誇りに思う歴史教育ということで、ご議論をいただきました。</p> <p>これを踏まえまして、「松浦市読書活動推進方針」を担当課で策定しておりますので、その中身についてご説明を申し上げ、ご議論いただければと思います。</p> <p>また、今年度の全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。残</p>

教育総務課長  
教育長

念ながら、松浦市の結果は残念と言わざるを得ない状況でございます。平均正答率が全国平均を下回っている状況でございます。資料を見ますと、一番少ない数字はマイナス1.4、大きいものになるとマイナス6.9というような、大変厳しい状況にあります。この結果を踏まえて、本市の児童・生徒の学力向上について報告させていただきますので、色々な面でのご指導をいただければと思います。

限られた時間ではありますが、よろしく願い申し上げて、開会にあたってのご挨拶とさせていただきます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

続きまして、今西教育長にご挨拶をお願いします。

教育委員を代表しまして、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、今年度の第2回目の総合教育会議ということで、友広市長との協議の場を設けていただきまして、誠にありがとうございます。また、日頃から教育行政の推進に向け、ハード面、ソフト面と予算の確保にご配慮いただいておりますことに、重ねて感謝申し上げます。

ここで、現在の教育委員会関係の取り組みの状況について、少し時間をいただきまして、主なものをお伝えしたいと思います。

まず、ハード面につきましては、福島地区小中学校体育館の建設を進めており、予定では来年秋から新しい体育館が使用できる状況です。また、スポーツ施設では、今福の野球場の建設や田代体育館、上志佐公民館エレベーターにつきましても、年度内完成に向けて進んでいるところです。

ソフト面につきましては、市内小中高生の文化・スポーツ面での活躍が目覚ましく、今福中学校出身で鹿町工業高校3年の山口伊吹さんが、自転車競技で県民表彰を受けました。また、県中総体駅伝大会では志佐中2年の吉浦はるくんが、1区で区間賞、松浦高校が県駅伝大会で準優勝となっています。また、水泳や書道、珠算でも全国や県でトップの成績を上げています。それぞれ、教育委員会で表彰を行ったところです。

「なぎなた」につきましては、東京オリンピックが開催される2020年のインターハイの開催地として、全国高体連から松浦市に正式依頼がありました。前年度、平成31年度のプレ大会を含め、運営体制の強化と松浦高校が好成績を収めるためのジュニア層の育成に力を入れているところでございます。

それから、電子黒板を各学校に導入しているわけですが、今年度で完了します。また、中学生用のパソコンも2月中旬に整備完了予定で、ICT機器を使った効果的でわかりやすい授業の構築を今後進めてまいります。

文化財関係では、水中考古学研究センター初の事業として、来年2月に水中考古学セミナーを開催します。対象者は、国内の大学生や水中遺跡がある市町の職員、講師として琉球大学の池田教授や国内トップクラスの方を招くようにしています。水中考古学の拠点につながるものと考えています。最後に、登録有形文化財 旧長醫家住宅主屋の公開を11月に行い、239名の見学がありました。建物の歴史的価値、造りの凄さを感じ、市民の方も訪れていました。活用策のアンケートをいただいておりますので、今後活かしてまいりたいと思います。

最後になりますが、本日の会議では「教育のまち 松浦」の確立に向

教育総務課長	<p>け、市民あげての読書活動の推進、学力向上のための取り組みを主な議題として取り上げていただいています。有意義な協議の場となるよう積極的な意見交換の場となるようにと思っておりますので、どうぞよろしくをお願いします。</p>
市長	<p>ありがとうございます。それでは、これから協議に移らせていただきます。議事進行につきましては、松浦市総合教育会議運営要綱第5条の規定により、友広市長が行います。</p>
学校教育課長	<p>今日は、児童・生徒の学力向上についてと、市民あげての読書活動の推進についての2項目を議題とさせていただきます。</p> <p>さっそく、児童・生徒の学力向上について、に入ります。学校教育課から説明をお願いします。</p>
学校教育課長	<p>児童・生徒の学力向上について説明させていただきます。資料1、2です。</p> <p>平成29年度全国学力・学習状況調査における全国と松浦市の平均正答率との差をご覧ください。非公開資料となっています。</p> <p>[Redacted]</p> <p>[Redacted]</p> <p>[Redacted]</p> <p>[Redacted]</p> <p>[Redacted]</p> <p>[Redacted]</p> <p>[Redacted]</p> <p>[Redacted]</p> <p>[Redacted]</p>
	<p>ここで、12月号の市報に載せる結果概要を見ていただきたいと思います。「成果」「課題」「解決策」となっています。</p> <p>成果では、小学校算数において、図形、面積では全国平均を上回っています。中学校国語は漢字を書いたり、読んだりすることには良好な結果がでていました。質問紙調査では、小・中学校ともに「算数・数学の勉強は大切である」「算数・数学の学習を普段の生活の中で活用できないか考えている」と回答した児童・生徒が多い状況です。小・中学校ともに、昼休みや休日に図書館を利用する児童・生徒が多いとなっています。</p> <p>課題では、小学校国語で、目的に応じて、文章中から必要な情報を見つけて読むことに課題が見られる。中学校は漢字が概ね良好となっていますが、小学校では漢字を書くことができなかったということです。中学校の数学では、方程式の解の意味の理解、方程式を使って解くことに課題がみられるということがありました。質問紙調査では、小・中学校ともに、今回の問題について「解答時間が十分でなかった」と回答した児童・生徒が多い。小学校国語・算数ともにB問題、中学校数学A・B問題に時間が十分でなかったということが特徴的に出ています。小学校では、外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思う児童が少ない。中学校では原稿用紙2～3枚の文章を書くことについて難しさを感じているという結果が出ています。</p> <p>こういった状況ですので、学力向上への対策として、10月17日に臨時校長研修会を実施しました。その中で、松浦市のすべての小中学校</p>

が取り組む3つの共通実践事項を協議し決定したところです。

- ①子どもに届く「めあて」と「まとめ」の板書（提示）の徹底
- ②質と量を考慮した家庭学習の実施
- ③活用につながる基礎・基本の定着

やはり、わかる授業、出来るようになる授業、効果的な家庭学習、基礎・基本の定着が実践事項と、校長先生方も考えているということで、今、既に学校ではこの3つをしっかりと実践しているところです。

次に、学力調査の機会の増加について、を挙げています。表を見ていただきますと、現在は表の黒文字で「実施」としているところが、スケジュールで学力調査を実施しています。新たな予算を伴うことですが、赤文字の部分を実施すると、より学力向上に直結すると考えています。また、表の下には、赤文字を増加することにより期待される効果を①から⑦まで挙げています。⑥に挙げておりますが、市の学力調査の実施学年が増加すると関わる教員も増えます。各学校の校内研修が活性化して、ひいては、教職員の指導力向上になる。意識が変わるということが大きいと思います。また、⑦は、実は小学校は、小学校教員の学年の壁、中学校は、中学校教員の教科の壁が指摘されたりします。小学校の学年の壁は、5年生が県の学力調査、6年生が全国の学力調査で、高学年の担任だけが学力調査に関わっているように見受けられますが、実際に出題されている内容は、低学年、中学年から出題されるわけで、そういった学年の壁を越えた学校での学力についての論議を高める対策が取られていなければならないと考えているところです。中学校は、全国の教科は国語、数学です。平成31年度には英語が実施されます。理科は、3年に一度実施されます。そういった毎年ではない教科はあまり関係ないといった意識が払しょくできると考えています。市の学力調査の実施を挙げています。

資料2です。

改定された学習指導要領による、小学校の授業時数です。上段は平成29年度の授業時数で、下段が平成32年度完全実施になりますが、平成30年度から移行期間に入りますので、これに向けて移行していかなければならないとなっています。特に外国語、外国語活動の授業時数が大きく変わります。上段にありますとおり、各教科、道徳、外国語活動の授業時数があります。現行、5年生で年間35時間、6年生で年間35時間、週に1時間。単純に表を合計すると70時間です。これが、来年度から移行します新学習指導要領では、各教科の中に小学校でも外国語が位置付けられます。5年生で70時間、6年生で70時間、つまり週当たり2時間となります。音楽や図工、家庭科の時数よりも多くなります。さらにこれまで高学年で行っていた外国語活動を3、4年生で実施しなければならなくなります。それぞれ35時間です。よって、外国語に関する学習がこれまでの70時間から、この表で比較したときに210時間と3倍になります。

そこで必要になってくるのがALTです。資料の裏に小学校及び中学校のクラス数と外国語に関する授業時数、そしてALTの必要日数の表を載せています。御厨小学校でご説明します。御厨小学校は、平成30年度、3年生1クラス、4年生2クラス、5年生1クラス、6年生2ク

	<p>ラスになる予定です。外国語の週当たりの授業時数は3年生は1時間、4年生は週1時間ですが、2クラスですので週2時間、5年生は1クラスですが週2時間ですので2時間、6年生は週2時間の2クラスで4時間、御厨小学校だけで外国語に関係する時間が1週間で9時間となります。9時間の授業すべてにALTが入るとなると、1日4・5時間と考えた場合、2日必要となります。こういった計算で行きますと、小学校だけで18日間必要ということになります。中学校の授業時数は変わりませんが、9日間必要で、小中学校合わせて27日間必要ということになりまして、27日間ALTを配置することになりますと、週5日間、5.4人のALTが必要となります。6人必要となりまして、現在3人ですので、いきなり6人は無理だろうと私も考えておりまして、小学校の必要時数の約半分50%とすると19日間、19日間で3.8人、4人ALTが必要となって、今は3人ですのであと一人ALTが増えると、小学校の外国語活動も数字上充実すると思っていますところでは。</p> <p>人件費は高いのですが、小中学校の教育支援員が20名います。それから図書支援員3名、中学校数学の非常勤講師4名の予算をいただいています。これまでも充実した配置をいただいております、きめ細かな指導体制が構築できています。各学校の校長や保護者からは、教育支援員、図書支援員、非常勤講師の配置について感謝の声も多くいただいております。</p> <p>今回の学習指導要領改訂の特徴は、社会に開かれた教育課程というのが言われておりますが、中でも小学校の外国語は目玉の部分であります。ALTにつきましてもよろしくお願ひしたいと考えているところです。また、昨年度及び本年度で各学校のICT教育環境が整備されました。本当にありがとうございます。学校訪問を行うと、多くの授業、多くの教室で電子黒板や実物投影機が使用されておりました。今日、県音研があり、私は志佐中学校の授業を見に行きましたが、志佐中学校でも使われておりました。他の授業でも使われておりました。このことも、この会議で是非報告させていただきたいと思っておりました。</p> <p>以上で、学校教育課の説明を終わります。</p> <p>今回の全国学力・学習状況調査の結果と分析がありました。このことについて、皆様からご意見、ご質問等をいただきたいと思います。</p> <p>調査結果から、解答の時間が十分ではなかった。試験に慣れておくことも大事です。思考力をつけるという面も大事だと思います。学力調査の学年での拡充が必要であると思っています。</p> <p>これから先の子どもたちの学力向上を考えたときに、新指導要領で3、4、5、6年の時数が増えます。増えると益々教職員の余裕がなくなってくると思います。とにかく、教科の消化で時間が取られてしまう。となりますと、学力向上の件とあわせると、そこに向けての対策というのが、なかなか難しくなってきます。学校教育課としても、松浦市のすべての小中学校が取り組む3つの共通実践事項を挙げていますが、全国で1位、2位を占めている福井県、秋田県が取り組んでいるやり方について、研修視察で学び、市内小中学校へ波及させていくことも学力向上のうえでは必要である。こういったところにお金をかける必要があると思いますが、そういうことへのお金のかけ方も大事なことはないかと</p>
市長	
教育長	
島田委員	

教育長	<p>思います。</p> <p>学校によっては、視察を行っているところもありますが、予算の関係で指導主事が行けない状況です。学校を指導する立場から、まず、指導主事から視察研修を行わせたいと思っています。</p>
市長	<p>学校現場、家庭において、今回の学力調査でなぜ、全国平均を下回ったかの原因を把握し、改善する必要があるのではないかと思います。</p> <p>問いに対する読解力がないことも原因のひとつではないでしょうかと考えます。そうすると、テストに対する慣れや出題を読み取ることが必要ではないでしょうか。</p>
市原委員	<p>島田委員がおっしゃるように、これだけ時数が増えてくれば学校だけでなく、家庭学習や自主学習の習慣づけも必要と思います。</p> <p>次の議題の「読書」と大きく関係があると思います。本を読んでおけばわかる問題もあると思います。算数の問題もそうでしょうが、読解力がないと問題にとりつけない。基本的に読書が大切なのではないだろうかと感じています。</p>
白石委員	<p>新聞等で全国の平均が出ています。学力調査の結果を、家庭、保護者がどう捉えているのか。学校の先生が一生懸命になっているのはわかりますが、保護者はどう考えているか。保護者にアンケートを実施してみてもどうでしょうか。</p>
平原委員	<p>外国語の時間が増えて、先生の配置はどうなるのか。また、ALTの話がありましたが、私たちは日本人の先生に英語を習ったという感覚しかありませんので、小学校でも英語の先生が配置されるのでしょうか。</p>
学校教育課長	<p>時数は増えても、教職員の配置はかわりません。英語の免許を持った教員が配置されることはありません。全国で若干名、英語専科というのがあります。松浦市で1名、県内で5名いるかどうかでしょうか。そういった状況です。小学校は学級担任制ですから、担任が全部やることになります。</p>
平原委員 学校教育課長	<p>先生方は、今まで以上に時数が増えても大丈夫なのですか。</p> <p>週に29時間は、小学校では初めてとなります。月火木金は6時間、水曜日に職員会議、校内研修を設ける6校時目だけが話し合ったりする時間になってしまいます。</p>
教育長	<p>小学校では全教科教えます。5時間あれば5時間全部、国語、算数、理科、社会など。中学校では6時間あれば多くて4時間で、授業の研究ができる。小学校は全部終わってからとなります。教職員の負担は大きい。加えて英語が入ってきますので、ALTの配置は大きな力になります。</p> <p>これまでの英語は「書く」「読む」でしたが、これからは「聞く」「話す」も加わる。外国の人とどれだけ話したかが重要になります。上志佐小学校は英語が盛んで、その時にはALTを入れて、英語の楽しさを学びますし、楽しさと会話力を相対的にいうと、ALTの配置を4人希望していますが、実際は6人配置が必要な状況です。</p>
島田委員	<p>教材研究に時間を要します。ALTの1名追加だけでも非常に効果は大きいと思います。</p>
市長	<p>ALTの話が出ましたが、財政が予算をつけやすい説明が必要です。言葉のほか、数字での説明が必要です。例えば、「このような状況でAL</p>

島田委員	<p>Tが4人いた。時間数がこれだけ増えて、その比率からいくと6名が必要である」と言った説明です。</p> <p>英語の時間数が増えているのにALTは1名減になっている。時間数が増えているのなら、ALTを増やさなければならない。財政には数字で説明していかないと、財政も予算化してくれない。</p> <p>予算要求の時期にだけ予算要求してもいけない。見直しや変化があるときに話をしておくことが大切で、たまには財政担当者を学校現場に連れて行って、日頃の実情、実態を理解してもらい、知ってもらうことも必要と思います。</p> <p>学力向上については、教育委員とともに松浦の現状を分析、把握し、対策をしっかりとっていく。予算については、先に申した手法をとられるのも、前に進むことになるのではないかと思います。</p> <p>ハード面で電子黒板等、充実してきました。今後、どう活用していくか、伸ばしていくかということになると思います。伸びて行くことを私は期待しています。</p>
教育長	<p>ICTの整備では、今年度中に全校配置されますが、県内ではあまりありません。それをどう活かすかが大事だと思います。</p>
平原委員	<p>パソコンに詳しい先生は少ないと思いますので、支援員を何人か配置し、各学校を回るようなことを考えていただければ、もっと有効活用できると思います。</p>
教育長 平原委員 島田委員	<p>今、1人です。16校ありますから。</p> <p>支援員はもっと必要と思います。先生が習得されるまでは必要です。</p> <p>宝の持ち腐れになっては困ります。効率的に効果的に使って行くことが課題です。</p>
市長	<p>まとめに入りたいと思います。今回、学力調査の結果の報告を受けました。全教科全国平均を下回ったことについての報告を受けて、成果と課題、改善策について報告を受け改善策のご意見をいただいた。今後、それをどう学校現場、家庭に反映していくかについて、例えば、英語については時間数が増えるということになれば、体制を整える。ALTの増員も体制を整えるひとつである。もうひとつ、読解力に重点を置いた教え方も大切ではないかということであったと思います。今後、教育委員会としてしっかりと取り組むべきで、市長部局としては、そのための予算というかたちで、反映していく必要があるということでもまとめたいと思います。</p> <p>2番目の「市民あげての読書活動の推進について」に移ります。</p> <p>今後の市政の方向性からしまして、ハードからソフトにシフトしていく必要があるということで、教育と子育てを掲げていくことをソフトの目玉にしていきたい。その財源については、ふるさと納税を活用してはどうかということで、今回条例を見直して、これまでのふるさと納税は返礼品で国民の皆様からいただいておりますが、国が返礼品は30%以内におさえるようになりまして。返礼品によるふるさと納税に手が打てなくなっています。今後は、ふるさと納税していただいたお金をどういうふうに使って行くかということによって、ふるさと納税をしていただくとなると、松浦市では「子育てと教育」に、ふるさと納税を使わせていただくということで、取り組んでいこうと12月議会で基金条例</p>

生涯学習課長	<p>を提出し明確にするようにしています。結果として「教育のまち 松浦」の確立を目指していくことにしています。その具体的な取組みとしては、今日、提案しています「市民あげての読書活動の推進」につなげていければと思っています。</p> <p>このことについては、関係4課、図書館協議会等々の協議がなされておりますので、生涯学習課長から「松浦市読書活動推進方針（案）」の説明をお願いします。</p> <p>第1回総合教育会議の折に、今も市長から話がありましたとおり、今後の市政の進め方としてハードからソフトへのシフトということがありました。その中で教育と子育てについて、原資を充てながら進めていきたいとお話がありまして、「市民あげての読書活動の推進」というものを具現化していくための方針を作るべきだということを踏まえまして、関係4課、図書館、図書館協議会、前回の教育委員会において案として調整させていただいているものでございます。</p> <p>「第1章はじめに」において述べているのは、方針策定の背景と趣旨についてでございます。</p> <p>2 方針の位置付けで、来年度に第2次の「子ども読書活動推進計画」を策定することになりますので、その計画に繋げていくための方針であることを明記しています。前回の総合教育会議の折にも、子どもの読書活動推進というのが大事であるとのご意見がありましたので、しっかりと受け止めたかたちで、この方針の中で位置付けております。</p> <p>第2章 読書活動推進方針で大きな2本の柱として、1つめが、「子どもから高齢者まで市民あげての読書活動の推進」を図っていくということで、(1)子どもの成長（状態、状況）に応じた読書活動の推進、(2)読書に親しむための機運・きっかけづくりということで、市民が読書に興味を示すよう機運を高める仕掛けが必要としています。(3)子どもの読書活動に係る家庭、学校、地域の協力・連携ということで、地域をあげて読書活動を進めていく視点からの取り組みが必要ということの方向付けです。(4)市民の読書活動の推進と担い手の確保・支援ということで、ボランティアを含めたところでの担い手の方々がいないと、読書活動が広がっていかないことから、4つの柱をもって「子どもから高齢者まで市民あげての読書活動の推進」という柱を方針の中に入れていきます。</p> <p>もう一つの柱が「読書活動の中核となる市立図書館の強化と連携」です。(1)地域の読書活動拠点としての図書館機能強化で、職員人員の増強やハード面での機能強化を図ることとしています。図書館に足を運んでいただくために(2)市民のニーズに合わせた図書資料の充実が必要になってきます。(3)地域・関係団体・関連施設との連携ということで、図書館を核とした松浦市内の関係団体・関連施設と連携することでネットワークを形成し、知らせていくことが必要との視点で述べています。(4)バリアフリーサービスの推進ということですが、バリアフリーを推進する法律ができており、合理的配慮をできる限り公共施設において実施すべきという流れから、方針の中で利用者に対応していくことを明記しています。</p> <p>第3章 今後の取り組みとしまして、第2次「松浦市子ども読書活動推進計画」を来年度策定し、31年度からの5年か計画を作りたいと思</p>
--------	--



<p>市長 島田委員</p>	<p>っております。図書館協議会の中で、具体的に目標となる指標を策定するためのアンケート調査を今年度実施するようになっています。アンケートの細部について図書館協議会で話し合いをしまして、今年度から来年度にかけてアンケートを行い、具体的な指標を定めたいと、子ども読書活動推進計画に反映させていきたい。そのためにも、今回説明しました方針がベースになるということをご説明しております。</p> <p>施策の展開にあたっては、財政的なものもありますが、個別の計画等も関連しながら、ふるさと納税等を柱とする財源の確保に努めて、計画的に事業を展開していくことを、まとめとしています。</p> <p>本日の総合教育会議のご意見を踏まえて、最終的に調整させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>この件について、皆様方からご意見をいただきたいと思っております。</p> <p>読書活動推進方針（案）ですが、非常にわかりやすく、筋が通っているように感じます。方針策定の背景と趣旨、方針の位置づけ、そして推進方針、具体的にどうやっていくのかということが、きちんと述べられていますので、非常にわかりやすいと思っております。</p>
<p>教育長</p>	<p>今後、それぞれの施策について、具体的な数値、方法を検討していただいて、実践に結びつけるということが今後大切になってくると思っておりますし、平成31年度からの計画の中に位置づけていただければ、効果が得るのではないかと考えているところです。</p> <p>私も島田委員と同じ意見です。</p> <p>子どもから高齢者まで市民あがりの読書活動の推進においては、ソフト面と申しますか、「その気にさせる」とか、「三者の連携」であるとか、「リーダーの育成」とか、整理がきちんとされています。その中でも前回出ました「読書習慣」「読書リレー」といった意見もきちんと、具体的に盛り込まれています。</p>
<p>島田委員</p>	<p>2つめの「読書活動の中核となる市立図書館の強化と連携」は、ハード面と申しますか、施設や本、資料の充実といった面でもきちんと整理されています。その中でも課題となっている図書館職員の必要に応じた配置、移動図書館車の導入であるとか、そういった面もきちんと記載されています。</p> <p>松浦地域には比較的近くに図書館がありますが、福島、鷹島の地区の人たちが、いかに利用しやすいシステムを作るか、ということも今後大きな関心になると思うところです。</p> <p>「市民のニーズに合わせた図書資料の充実」の主な施策として、図書館資料の充実（資料、新聞、雑誌、視聴覚資料）とありますが、家庭での読書を考えた場合に、今、新聞を取っている世帯はどのくらいあるのでしょうか。毎日、新聞を読んでいる家庭はどのくらいあるのか。知りたいと思っております。というのは、毎日配られてくる新鮮な新聞は「読みたい」という意欲に繋がっていくと思っております。そういう意味では、まず家庭で新聞を読むということから始めることも、読書に繋がるのではないかと感じます。</p> <p>子どもたちで、新聞を読んでいる子たちは、学力が向上しているという話をされています。新聞を読めるということは、読解力があるということですので。まず、家庭でできることは、本を与えるだけでなく、新聞</p>

<p>市長 島田委員</p>	<p>を読むということもあるのではないかと考えています。 活字離れをどう防ぐか。新聞は効果が大きいと思います。 学校でも新聞を活用して授業を行っていますね。新聞の力は大きいと思います。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>第2章1(1)の主な施策のひとつに「学校図書館の充実強化」があります。その下に「学校図書館図書整備10か年計画」がありますが、この中に、学校図書館に新聞を置くということをしています。現在、全校に新聞を配置しています。ただ、長崎新聞だったり、小学生新聞を置いていたり、新聞を活用した授業にも取り組んでいます。NIE教育に取り組んでいます。</p>
<p>市原委員</p>	<p>松浦の図書館に11万冊の蔵書があります。貸し出しが年間10万冊、その中で貸し出しが5万冊で、「きらきら号」での貸し出しが4万冊ということで、非常に「きらきら号」の本の貸し出しが多いわけです。聞くところによると、「きらきら号」の運転手が一人で、なかなか回らない、休みも取れないような状況らしいので、新規の移動図書館車の導入も考えていただいて、2台で回れば、より効果的な読書活動になろうかと思っています。</p>
<p>市長</p>	<p>先般、市民の皆さんから貴重な浄財をいただきました。これまでは、例えば5万円ご寄附をいただいて、それを予算計上していたのですが、これからは、市立図書館に市民の皆様からいただいた浄財と概ね同額を市から追加して予算措置をしないと、浄財だけでやるのは如何なものかと。一定の図書購入費は予算化しているのですが、浄財に依っていただくということです。</p>
<p>白石委員</p>	<p>蔵書数は多いのがいいのですが、古くなった本は入れ替えて行くことにならないと、なかなか貸し出しの冊数が増えないと思います。市原委員が申された「移動図書館車」と地区の公民館をどう繋げていくかというのが大きなポイントになると思います。</p>
<p>生涯学習課長</p>	<p>公民館図書館の本ですが、星鹿は貸し出しが「0」の状況でした。私も借りたいなという雰囲気でもないし、古い本ばかりだった記憶があります。置いたままではなくて処分するとか。小学校は充実しているし、移動図書館車も回ってきます。市立図書館にも来れるので、公民館の本はあまり必要ないのではないかと考えています。</p>
<p>市長 島田委員</p>	<p>市長から出ました公民館のところで、5頁にもありますように、福島図書館や公民館図書室を分館化できないか考えています。市立図書館の分館とすることで、ひとつのシステムとして、ネットワークの中で管理して、定期的に新しい図書を回すようなことができないか検討したいと考えています。</p> <p>色々な知恵を出していく必要があるかと思っています。</p> <p>移動図書館で実績を上げています。なぜかと言うと、新しい本を選んで持ってきてくれます。借りている子どもたちはそれを知っている訳です。勿論、大人もそうです。移動図書館を待っているようにして、借りていらっやいます。子どもたちも借りています。実績がない公民館というのは、そこに置いてある本が古いのではないか、既に読んでいるのではないか、借りる必要がないといったことも考えられると思います。</p> <p>さきほど、分館化の話もありましたが、やはり本を刷新することをや</p>

<p>市長 平原委員</p>	<p>っていかないと、読書量には繋がっていかないと。思います。 やはり、手にする図書が無いことにはですね。 図書館利用者といった相手からの意見が入っていない部分があるのではないのでしょうか。 タイトルがあまりにも硬い。子どもから高齢者まで市民あげてというには、何か、サブタイトルではありませんが、引っ張り込む何かが必要だと思います。例えば、子ども読書の日、読書習慣、標語募集、読書リレーとか書いてあるのですが、黒川でいうと「家読の郷」とか何か、子どもから高齢者まで「本を読もうかな」など、もっと馴染みやすいタイトル、サブタイトルがほしいと思います。 それから、パブリックコメントを実施するような内容ではないのでしょうか。現在進行中の計画と整合性をとってあるなら、全然問題ないのですが、お金がかからない部分であれば、これで進めることに対して、利用者の声を集めてほしいと思います。</p>
<p>市長 平原委員</p>	<p>私も方針案を見た時に、普通の計画書のような気がしました。例えば「市民の心を豊かにする何々」といった。 タイトルにすると、お役所仕事が消えてしまうので、サブタイトルがいいのかなと思いました。「市民の心を豊かにする読書活動」とか。</p>
<p>市長</p>	<p>「市民」という言葉を入れたほうが良いと思うのですが、言葉が思い付きませんね。「松浦市読書活動推進方針」とすると「何々整備計画」といったものと同じハードの名称で、ソフトの名称ではないと思いました。 子どもから高齢者までの読書活動の推進ということです。私としては「スイッチ・オン」という言葉を使わせていただきたい。読書をしていくという行動を起こしてもらい、「スイッチを入れる」という「スイッチ・オン」を提案したいと思います。</p>
<p>生涯学習課長</p>	<p>方針をつくるのが目的ではなく、つくったものを市民にどう取り組んでもらうか。市民の皆様方に、読書をしてもらうスイッチを入れるということを思っていました。タイトルが硬すぎるので。 サブタイトルも含めてということでしょうか。 利用者の声ですが、図書館協議会の利用者の皆様方にもお配りし見ていただいて、意見を吸い上げています。</p>
<p>平原委員 生涯学習課長</p>	<p>子どもとなると学校現場の先生方にもですか。 校長先生方もお見えでした。そういった方々の意見を入れてのものでございます。 島田委員が申された、どれだけの家庭で新聞を読んでいるのか等を踏まえて、アンケート調査を実施し、子ども読書活動に生かすための色々な題材を詰めようと思っています。利用者の声も聴きながら、学校現場からも聴きながら、子どもの読書の計画に生かしていきたいと思います。</p>
<p>平原委員</p>	<p>計画はすぐ出来るのでしょうか、施策として実行するのはすごく難しいですね。</p>
<p>市長</p>	<p>特に、ハード事業に対して、ソフトは市民の皆様方に行き届くのが非常に難しい。時間もかかります。 この松浦市読書活動推進方針（案）の基本的なものは、ご了承いただけたと思います。あと、もう少し柔らかいサブタイトルについて、教育委員会でご検討いただきたいと思います。</p>

やはり、市民の皆様方にしっかりと、松浦市、教育委員会が目指す「子どもから高齢者まで市民あがての読書活動」を、どう展開していくかということについて、粘り強く取り組んでいただきたい。そのための指標として、まず、家庭で新聞を読んでもらうというところからも切り口としては大事なことはないか。一番は、蔵書を増やし、更新すること。しっかりと松浦市図書館を確保すること。この計画に基づいてどう、施策を展開するかにかかっていると。そのための取り組みを行っていくということでまとめたいと思います。

次に、その他の項に移ります。

皆様方からなければ、以上をもって平成29年度第2回総合教育会議を閉じさせていただきます。ありがとうございました。